

# だんないの道

## 第15号

2014年10月1日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町  
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつ ..... P1  
私かだんないで学んだこと ..... P3  
活動報告 ..... P4  
コラム ヨリの雑記帳 ..... P7

彦根ILPの目指すもの ..... P2  
職員リレートーク ..... P3  
だんないまつり案内 ..... P6

### 代表あいさつ

全国各地が豪雨災害に見舞われた今年の夏。ニュースで流れるインタビューでは「こんなの初めて」という言葉をよく耳にしました。本当に初めてなのかという疑問を感じる一方で、地球温暖化の影響がここまで進んでいるのかという恐怖も感じる夏でした。だんないの前は、雨が多かったせいか雑草が生え放題でしたが、近所の方々のご協力もあり、すっかり綺麗になりました。感謝申し上げます。

ところで、だんないにとっては、新しい活動の挑戦スタートの夏でもありました。例えば、木ノ本駅周辺で行ったバリアフリー調査です。企画担当の小里を中心に、「お手伝いしますステッカー」を商店街の店舗に配布し、貼ってもらえるようお願いするという活動を行いました。多くのお店がこの活動に理解を示し、半数近くがステッカーを貼ってくださいました。現在、小里によって訪れたお店をデータベース化する作業を進めており、いろいろな情報が管理できるように整備する予定です。どこかの時点で、みなさまにも必要な情報をわかりやすく、ご報告したいと考えています。

また、自立生活プログラムにも力を入れました。7月は米原市のグリーンパーク山東でバーベキュー、8月にはだんないで水鉄砲遊び、さらに木之本地藏盆への参加など盛りだくさんの自立生活プログラムとなりました。私たち障害者にとって、一般的な楽しみを味わうのはなかなか難しい現状があります。それゆえ、自立生活プログラムの実施は、非常に意味のある活動だと実感しています。今後も、より多くの自立生活プログラムを企画し、地元での活動を展開したいと考えます。

さて、みなさまにお知らせしたいことが2つあります。まず、10月13日に自立生活センター・湖北（ぼてとファーム）さんら障害当事者団体と結成する「北部地域・障害者ネットワーク」の設立集会を開催します。だんないがよく利用する「長浜市勤労者福祉会館（臨湖）」で、13時から行う予定です。沖縄の石垣島から「自立生活センター南十字星」代表の金城太亮氏をお迎えし、条例づくりへの道のりやCIL設立に至った経緯などを聞かせていただきます。個人的には、呼吸器を装着しながら飛行機に乗ったり、喫煙したりされる様子を聞いてみたいと思っています。第2部では、今後リーダーとして期待される北部地域の障害当事者、若手3名によるパネルディスカッションも予定しています。普段よくある研修とは違い、若手中心のイベントになるので、意外と楽しめる内容になると思います。みなさま、お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

次に、11月3日、だんないにおいて「だんないまつり」を開催します。いつもお世話になっている会員のみなさまや、地域の方々に感謝の気持ちをお伝えする機会にしたいと考えています。こじんまりとしたお祭りにはなると思いますが、ぜひお立ち寄りください。11時頃から夕方ぐらいまでを考えています。直接お会いする機会があまりないので、これをきっかけに交流を深めましょう。

夏が終わり、滋賀県知事や内閣も変わり、情勢は目まぐるしく変化することが予想されます。しかし、私たちは常に冷静に、初心を忘れずに活動していく所存です。会員のみなさまや地域のみなさまには引き続きお世話になりますが、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

美濃部 裕道

# 彦根 ILP の目指すもの

小里 和也

彦根 ILP の動向や活動目的ができたのでお知らせします。

## 活動目的

- 彦根で障害者の自立生活を促進する。
- 自立生活をするのに必要な力と自信を身に着ける。
- 彦根のバリアフリーガイドマップの作成。
- 障害当事者が集まり彦根で障害者同士のネットワークをつくる。

この目的に求めているものは、自立生活プログラムを行い、自分のやりたいことを尊重し、自己選択や自己決定をすることで力や自信につながってくる。また、障害当事者同士の交流を大切に、ネットワークを広める。

これまでの彦根 ILP では、自立生活プログラム開催に向けた情報収集やバリアフリーチェックを含めた活動をしてきました。

今回は、彦根駅から歩いて彦根城博物館や彦根市立図書館へ行きました。彦根城に行く途中には、お堀横の歩道の道を車椅子1人通るのが精一杯で非常に危ないと感じました。

彦根城博物館の入口までには、道が舗装されていて館内にはスロープがあり、問題なく入れました。また、館内には段差もなく、展示物の位置が車椅子でも見られる高さの位置にあり、見やすかったです。身体障害者トイレも完備されていました。

図書館も、階段がなく車椅子でも入れることはできましたが、本棚と本棚の間を車椅子で通るのが厳しく、また本棚だけでなく他にも物が置かれており、奥まで行くのが厳しかったです。身体障害者トイレがあり、広さは問題なかったのですが、手すりが必要以上に設けてあり、車椅子では狭くて入るのが難しかったです。図書館トータルでみた結果、館内は車椅子で通るのが難しいので、本棚や物の位置や、トイレの手すりの設置位置を考える必要があると思いました。

その後、彦根駅東口近くにある某焼肉店に行きました。入口は段差もなく、入れましたが、幅が少し狭かったです。店内は席が空いていれば車椅子三人が入れるスペースがあり、入ることが可能です。店員さんも親切な人でした。

また補足ですが、呼吸器の充電もさせていただくことができました。ぜひ、皆さんも美味しいので行ってみてください。

その後は、全くのプライベートですが、彦根駅近くのカラオケに行きました。部屋は車椅子3人が入ることができました。また大きい部屋であれば大勢で入ることができます。しかし、トイレは段差があり、行けません。また、カラオケ店から最寄りのトイレは交番の裏のトイレが近いです。それと、彦根駅周辺に車椅子でも入れるトイレが何ヶ所あるか調べる必要があると感じました。

## これからの活動

- 彦根 ILP の説明や活動目的をまとめ、チラシを作成し各彦根の作業所、施設、養護学校に配布する。
- バリアフリーを含めた彦根情報の招集や、車椅子で入店できる店できない店の把握。

彦根 ILP という団体を作り、自立生活をしている人、目指す人がたくさんでき、なにも不便なく自分らしい生活ができる彦根を目指していきたいと思います。今後とも、微力な私たちですが、暖かく応援してください。

## 私がだんないで学んだこと

中川 佑希

私がだんないに勤めて約1年半、さまざまな経験とたくさんの出会いがありました。例えば、大阪の御堂筋で差別解消法のパレードに参加したり、多くの研修へ行く中で駅員さんの対応の違いやホーム段差解消・ホームドア・点字など、色々なバリアフリーを知ることができたと同時に地域格差を感じました。

そのほかには、私が学生時代から興味があったピアカウンセリングに携われたことです。私が初めてピアカウンセリング講座で1コマをやった時、自分でも「何を言っているのか分からない」ほど緊張していたのを今でも鮮明に覚えています。でも、そういう失敗から学ぶという経験が大切だと気づくことができ、失敗を積み重ねていくことによって、自分を知り自信に繋がっていくことを実感しました。

また、湖北で生活をする中で住居を借りる時、駅での対応など、それまで生活していた南部では経験しなかったことがありました。特に印象に残っているのが、駅の無人化問題でした。19時半以降は無人になり、24時をまわるとエレベーターが停止になるということ。実際にダイヤが乱れて24時をまわり、エレベーターが停止し駅に取り残されるという経験をしました。その時は恐怖を感じました。その後、事務局長ともに交渉に行き、後に一部改善されたことは私にとって大きな収穫でした。

当たり前を利用することや生活することが、保障されていない現状があると思いました。そして、行動して伝えていくことから人の意識や仕組みを変えていける、そのためには共に動く「仲間」が居ることが重要だと思います。

この1年半で私の中で変わったことは「発信」していくことの大切さです。通信やブログなどを通して活動や思いを発信していくことで自分の意識も変化していきました。これらの自分か経験してきたことを活かし、伝えていき、社会を変革していきたいと思っています。これから更に自分らしく活動していきますので、宜しくお願いします。

### 職員リレートーク

#### バリアフリー調査を経験して

伊戸 昇平

僕は4月にだんないに入ってから5月に初めてのバリアフリー調査を経験した。最初は何のためにしているのかわからなかったが、月日がたつにつれて意味を知りとても必要な活動だと思った。何故かというところ今の社会は障害を持つ人にはとても生きづらい世の中だと思うからである。しかし、少しずつ変わりは始めている。

まず、1つ目は駅にエレベーターがあるということ。当たり前のように思われがちだが湖北地域にはつい最近になってようやく設置された。しかし、エレベーターの中は狭いし車椅子利用者とヘルパーの2人以上は厳しい。2つ目は車椅子の人でも難く入れるお店が多くなったことだ。これもありがちだが、なかなかないように思える。このようなことを考えていくとバリアフリー調査はとても意味もあるし、していかなくてはならない活動である。

それに自分の障害者に対する価値観もずいぶん変わった。いままでは目をそらして生きていたが、ヘルパーとして仕事をしていくと障害を持っている人、そうでない人共に生きていくことのできる社会が本来の姿なのだと思う。そういうことを考えるとやはり今の社会は障害を持って人とそうでない人では大きくちがう。これからこの世の中が障害のある人、ない人共に暮らせる社会ができあがっていくと全く不自由なく生きていけるだろうと思う。

## 活動報告

日付	内容	参加者
7月8日	東本願寺バリアフリー会議	頼尊
7月11日	だんない企画会議	
7月13日	だんないピア・カウンセリング講座	
7月14日	障大連 総決起集会	頼尊
7月14日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 事務局会議	美濃部 頼尊
7月15日	だんない自立生活プログラム グリーンパーク山東オートキャンプ場	
7月17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会	美濃部 市川
7月17日	なんばおにごっこ会議	頼尊
7月18日	だんないバリアフリー調査 長浜黒壁スクエア	
7月20日	だんないピア・カウンセリング集中講座	
7月20日	第12回車いすアクセス・マニア集会 in 京都	頼尊
7月22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川 頼尊
7月25日	平野小学校 講演	中川
7月25日	長浜市地域福祉活動計画推進委員会	美濃部
7月26日	湖北障害フォーラム準備会議 in ぼてとファーム	
7月27日	だんないピア・カウンセリング集中講座	
7月28日	福祉教育懇談会 やすらぎハウス	美濃部
7月29日	第1回長浜市成年後見・運営委員会	美濃部
8月2日～3日	2014年度第24回バクバクの会定期総会	頼尊
8月4日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 ケース会議	美濃部 頼尊
8月5日	だんない研究発表会	
8月7日	長浜バイオ大学 講演	美濃部
8月8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 運営委員会	
8月12日	だんない企画会議	
8月19日	だんないバリアフリー調査 木之本駅周辺	

8月20日	じゅぽ会議	中川
8月21日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 相談ワーカー部会	美濃部 市川
8月22日～24日	あっとほらむぱれいす ピア・カウンセリング集中講座	頼尊
8月25日	別府亀ノ井バス問題 会議	頼尊
8月27日	だんないピア・カウンセリング講座	
8月28日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会	市川
8月28日	第1回新琵琶湖博物館創造ユニバーサルデザイン評価会議	美濃部 頼尊
9月1日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会	美濃部
9月2日	ピアカウンセリング委員会	
9月3日	自立応援ホーム 訪問	美濃部 頼尊 中川
9月6日	障害者制度改革に関する地域フォーラム	頼尊
9月7日	北部地域・障害者ネットワーク会議	美濃部 頼尊 小里
9月8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 ケース会議	美濃部 頼尊
9月8日	なんば鬼ごっこ会議	頼尊
9月10日	だんないバリアフリー調査 木之本駅周辺	
9月12～13日	自立生活体験者来館	
9月13～14日	人工呼吸器学習会	頼尊
9月15日	低きに合わせるのがこの国の生存権保障なのか 生活保護シンポジウム	頼尊
9月17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 全体会議	美濃部 頼尊
9月19日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 重介護・医療ケア検討部会 事務局会議	市川
9月20～21日	第11回 「障害児」の高校進学を実現する全国交流集会 in 北海道	頼尊
9月22日～23日	別府出張	頼尊
9月22日	じゅぽ会議	中川
9月24日	長浜バイオ大学 学生実習発表会	美濃部
9月26日	だんない自立生活プログラム 調理	
9月27日	ながようまつり	美濃部 頼尊 小里
9月30日	坂田小学校 講演	美濃部 市川

**NPO法人CILだんない事業**

# **第1回 だんないまつり**

**来る11月3日、「だんないまつり」を開催します。**

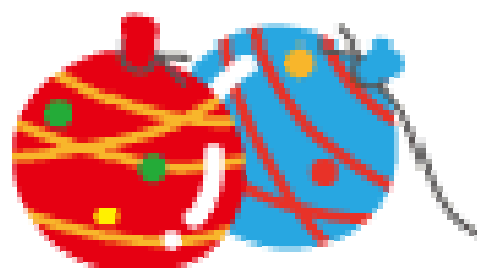
**いつもお世話になっている会員のみなさまや、地元の方々に感謝の気持ちをお伝えする機会にしたいと考えています。ごちんまいとしたお祭りにはなると思いますが、みなさまお誘い合わせの上、ぜひお立ち寄りください。**

**普段はだんないへ来ていただいたり、直接会ってお話させていただいたりすることがなかなかできないので、これをきっかけに交流を深めましょう！**

**開催日時: 11月3日(月・祝) 11時ごろ～夕方ぐらいまで**

**会 場: CIL だんない事務所・周辺**

**\*雨天の場合、規模を縮小しテントを張り行います。**



## コラム

### ヨリの雑記帳（14）

この夏の後半、1週間違いで行われた2つの福祉関係の学会大会が、それぞれの学会のコミュニティー内でちょっとした物議をかもし出している。私自身は、そのうちの1つの大会しか参加しなかったが、両学会ともに、車椅子利用者の参加が著しく制限される場所での開催となった。広島で行われた1つ目の学会については、私自身参加しなかったためメーリングリストやフェイスブック等で知りえる内容以外はわからないが、2つ目の学会は、私自身が問題提起したものである。

学会というのは、各々のテーマについて、それぞれの最先端の研究を発表し、議論を戦わす場である。特に私が参加した学会は、学会設立当時から、ほぼ皆勤状態で参加してきた学会である。その学会は、数年前にも、車いす利用者が参加出来ない場所で分科会が行われたこと等で、学会でも問題になったことがあった。つまり、今回が初犯ではないということである。たとえば、バリアフリー対応の会場だったのに、電動車椅子で会場に入ると床暖房が壊れるかもしれないという理由で、スロープが取り外され、隠されていたり、エレベーターには立ち入り禁止の柵がされていたりした。また、懇親会では、同じ店舗の中にバリアフリーな場所があるにもかかわらず、階段の上の特別室で行われた。このような状態は、大学を会場とすることが多い他の一般的な学会では、ほとんど経験したことがなかった。むしろ、学会側としては、様々な事情があっただろう。が、しかしである。その事情については全く説明が行われなかったし、「再犯」というずさんな事態に対して、学会員として公的に異をとる人はいなかった。その学会では、そのような状況の中、福祉や医療に関する議論が淡々で行われた。

そこで、私自身は、疎外感を感じながら、むなしく過ぎる時間をやり過ごすしかなかった。電動車椅子を利用してきた私にとって、上記のような対応は、本当に同じ学会員として、情けなくなってしまう。学会では、複雑な議論をするのだが、それ以前のところで、障害者に対して理解がないと言わざるを得ない。学会終了後も関係者の幾人かと会話する機会があったが、人によっては、この事態について無関心、あるいは学会側を擁護する見解も散見された。

もちろん、車椅子を持ち上げて運ぶ、あるいは当該の人を背負って会場まで案内することで、障壁はなくなり、障害者と健常者のふれあいの場が出来るとする考え方もある。しかし、それは、親切の押し売りに過ぎない。なぜならば、この学会の場合、参加者に車椅子利用者がいると知りながら、人為的にスロープを撤去し、エレベーターには柵をし、あえて懇親会の会場を1階のバリアフリーな場所ではなく階段の上の特別室でしたという事実があるからである。そのせいで、「背負われ」、「担がれ」し、「ありがとうございます。」と大会中連呼しなければいけなかった私がいるのである。それでいて、学会の運営に批判する者が少なかったというのは、本当に人為的に作られた「やさしさ」に過ぎない。

そのような、学会あるいはその学会に所属する研究者の感性や研究内容に関して、疑いの目を向けざるを得ない現実が、悲しいかな日本の研究の現場にはある。しかし、世の中の審議会や福祉教育の主翼を担うのは、そのような研究者たちなので、ほんとうにトホホである。

（よりたか つねのぶ）



NPO 法人 CIL だんない

〒529-0423

代表 美濃部隆裕道、副代表 市川正太

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

事務局長 頼尊恒信、理事 横山卓馬

TEL : 0749-50-3639

URL : [www.ab.auone-net.jp/~dannai](http://www.ab.auone-net.jp/~dannai)

FAX : 0749-50-3961

E-mail : [dannai@ae.auone-net.jp](mailto:dannai@ae.auone-net.jp)

郵便振替口座番号 : ゆうちょ銀行木之本支店 00940-2-209115

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない